

日野七福神めぐり

京王線で初詣
京王電鉄株式会社



布袋尊
宗印寺
日野市平山6-15-11 ☎042-592-6699
○平山城址公園駅より徒歩5分

当山は大澤山宗印寺と称し開創は慶長4年の頃とされる。開山は柚木の永林寺第四世傑秀賢大和尚といひ、開基は知行の中山助六郎照守という。しかし開創前すでにこの地に一寺が在っていたようで、約七、八百年前より一庵が開かれていたようである。やがて庵庵となるも本尊の観音菩薩が、人々の求めには必ず応えの叶えられぬことがないという。そこで当地知行の中山照守は永林寺の傑秀賢禪師に頼み此地に観音菩薩を本尊として一宇を建てたのがはじまりであると伝えられる。宗派は曹洞宗(禪宗)。境内には東国武士として一の谷の合戦で名をはせた、平山季重公の墓(都の旧跡)をはじめ、公の木彫像や日奉地藏、千体地藏などがまつられています。

布袋尊

布袋様は中国の實在の僧で、いつもにこやかに笑っています。大きなお腹をしていて、たいへん親しみがあります。背負っている袋には福財が入っているといわれ、知恵と福徳を授ける神として信仰されています。



子寶大黒天
善生寺
日野市東農田2-26-3 ☎042-581-2862
○南平駅より徒歩15分

当山は、江戸時代、豊田の地を知行していた地頭大久保勘三郎忠良殿が、寵愛の息女を僅か22歳で亡くし、その菩提所として正保2年(1645年)に建立した寺であります。平成10年、大黒天勧請を發願したところ予定地に大石があり、小石をたくさん含んだ大石で国歌の「さざれ石の巖となりて」になぞらえる吉瑞石とみなして、大黒天をその石の上にお祀りしました。お姿は昼夜を問わず布教しながら人々をお守りする姿。御名は開基大檀越がご息女を大切にしたいと、小石をたくさん含んだ大石に因み、子寶大黒天と命名しました。また、境内には丈六(4.8m余)の露座の釈迦牟尼大仏を祀り、広く信仰を集めています。

大黒天

大黒天はインド出身の神様で、仏様の教えを戴き布教しながら人々をお守りする神様です。黒く粗末な姿は休みなく布教する姿。福徳圓滿な姿は仏様の心を表したお姿です。慈しむ眼で動けば、小僧から福が無量に得られることを示しています。



壽老尊
延命寺
日野市川辺堀之内595 ☎042-581-0503
○南平駅より徒歩20分

有王山地蔵院延命寺と称し、延命地藏菩薩を御本尊とする寺である。数度の火災や住職のいない時代もあり開基不詳だが一説によると南北朝時代の創始とも新田義貞の鎌倉攻めで落武者となった内藤一族が婦孺し戦死者や先祖を弔うため堂宇を建立したとも伝えられる。また、本尊作者が鎌倉初期の京仏師(1200年頃)である点、境内の文明の板碑(1470年、市指定文化財逆修板碑とも云われ、生前に死後の安寧を祈願したもので市内唯一)江戸幕府初期の本末改め等から推測すると鎌倉時代の帰農武士が古い檀家の先祖と推測される。また、毎月16日は本堂内に御安置の大聖歡喜天(聖天さま)の御縁日で午後2時から観音経読誦会が行われる。

壽老尊

長寿と智慧をさげる福神。中国生まれの人物と言われ、長い白髪はまじれた小柄な老人で、経巻を結びつけた杖を手を持ち、長寿の象徴である鹿を描かれることが多い。福祿寿と一体の御縁日もあり当山所蔵のご尊像は、延命長寿のご利益があると伝えられる。



弁財天
高幡不動尊金剛寺
日野市高幡733 ☎042-591-0032
○高幡不動駅より徒歩2分

高幡山明王院金剛寺は古来関東三不動の1つに挙げられ、高幡不動尊として親しまれている。古文書によれば、大宝(701年)以前の開創とも、奈良時代行基菩薩開基とも伝えられるが今を去る1150年前、平安時代初期に慈覚大師円仁が清和天皇の勅願によって当地を東園鎮護の霊場と定め、不動明王をご安置したのに始まる。のち建武2年(1335年)8月4日夜の大嵐によって山中の堂宇が倒壊し、時の住僧儀海上人が、康永元年(1341年)麓に移し建てたのが現在の不動堂(重文)で、関東稀に見る古文化財である。修復が完了した日本一の丈六不動三尊(重文)は、奥殿の正面から毎日自由に参拝することができる。参拝時間 午前9時～午後4時

弁財天

弁財天は、水の女神・豊饒の女神であったが川の流れる音から音楽の女神となり、音は言葉に通じることから弁舌・学問・知識の女神となった。特に庶民にも親しまれ、今では「弁天様」といえば美女の代名詞である。



毘沙門天
安養寺
日野市万願寺4-20-8 ☎042-581-3624
○モノレール万願寺駅より徒歩5分

田村山極楽院安養寺は、真言宗智山派に属し高幡山金剛寺の末寺である。本堂(元禄時代初期、約300年前)は田村氏の書院の一部を使い建立されたものであり、また、庫裏(客殿)は本堂より古く約400年前に建立されたものと思われる。なお、このたび平成の大修理により、創建当時の姿を復元した。本尊阿彌陀如来坐像(都重宝)は、安養寺の前身である万願寺の本尊であったものと思われ、平安時代後期の作で端麗で細部の手法も見事である。また、藤原時代の毘沙門天像、鎌倉時代の大日如来坐像等、多数の古仏を安置している。尚、毎年4月第1日曜に、毘沙門天大祭を行い、護摩供養厳修し、張り子の虎を授与している。

毘沙門天

インド出身の神様。「毘沙門天王経」の中に、自分を信仰すれば、福徳・知恵・美貌・力・弁弁など、十種の利益があるといわれている。毘沙門天は多聞と訳し、多くの人々の願いを聞いてそれをかなえさせるという。



福祿壽
石田寺
日野市石田1-1-10 ☎042-583-6660
○モノレール万願寺駅より徒歩5分

愛宕山石田寺は、今から640余年前の康安元年(1361年)6月22日大雪が降って多くの民が餓死した時の国司が天下泰平国土安穩を祈るため堂を建てさせた。吉祥坊慶譽がこの堂宇となり、これが開基で時に1364年である。永和3年(1377年)にいったん廃寺となったが、天文13年(1544年)に大木があり立川普濟寺の近くの光堂から十一面観音が流れこの地に漂着、観音堂を建立「北向観音」と呼ばれ、大いに信仰を受けた。文禄2年(1593年)慶心沙門が本堂を再建てて石田寺と名づけられた。之を中興開山と称される。毎年10月17日露店も出て北向観音祭りが行われ、樹齢400年以上のカヤの木、その脇には、新選組副長土方歳三の墓があります。

福祿壽

現世ご利益を一身に背負った福の神として描かれたのが福祿壽です。中国宋の道士天南星の化身とも南極星の化身ともいわれる。人生の目的道徳で理想とされる幸福・備祿(給与)・長寿命の三徳をそなえるという。当山の尊像は「三徳福祿壽」と呼ばれている。



恵比壽天
真照寺
日野市落川1113 ☎042-591-1687
○百草園駅より徒歩2分

清谷山進華院真照寺の草創は、藤原氏全盛期の長和年間(1012～1016年)頃といわれ、開基弘意僧都は長元9年(1036年)3月3日入寂と記録されており、中興の法流の祖善意僧都は16世紀後半天正年間(安土桃山時代)であり、現在はそれより16代目に当たる。当寺は大正10年(中興14世野村有慶住職の時)不慮の火災により、山門、本尊像以外は、堂宇(9間～7間)、仏像、古文書等すべて焼失してしまいましたが、焼失をまぬがれた本尊像は元禄9年(1696年)の作で、山門は元禄15年の建立である。なお、武相三十三観音の第8番の靈場として名高く、安産、子育て観音として世に広く信仰されている。

恵比壽天

日本古来の神様で、商業、漁業、海の守護神で、商売繁盛にご利益があるといわれ、一説には事代主命が釣を好むところからモデル化されたともいわれ、鯛は古来より福を象し、釣ザオが福を鯛とする。当寺では恵比壽天を観音堂に別勧請しております。

新選組のふるさと日野
日野市観光協会